保健室

富士市立東小学校

養護教諭　久保田　歩

本校は、全校児童78名の小規模校です。学校教育目標は「ともにかがやく」学校保健目標は「元気いっぱい　えがおいっぱい」です。学校周辺の環境は、田んぼや茶畑が広がり、黒めだかが生息しているほど豊かな自然に恵まれています。また、児童らは、サザエさんのようにたくさんの家族と同居していたり、近所の方にも顔と名前を覚えて声をかけてもらったりと、どこか懐かしさを覚える地域で、元気いっぱいに生活をしています。そのため、児童は感受性が豊かで、穏やかな心を持っています。その反面、狭い価値観で物や人を判断してしまう傾向があることも感じていました。

先に述べた児童の価値観を広げるためにはどうしたら良いか?という課題を解決するためには、新しい体験をし、視野を広げることが一番の近道だと考えました。そこで今年は、7人のメンバーから成り立つ保健給食委員と一緒に、学校の課題の一つである「給食後のはみがき」に関する活動を行うことにしました。まず、この課題に対して、児童がどのように捉えているのか、そして学校のために何が出来るかを話し合いました。そして児童のアイデア「はみがき大作戦」というテーマで、「企画担当」「デザイン担当」「広報担当」の3つから、自分の得意分野の担当に分かれて、仕事をすすめました。具体的には「企画担当」は、職員会議の提案資料の一部を児童自ら手書きで作成し「デザイン担当」は活動で使用するはみがきスタンプカードの作成をし「広報担当」は、昼の放送を通して活動の予告・実況を行いました。

その中で、一番の成長を感じたのは、「デザイン担当」の副委員長がはみがきスタンプカードを一人で全て描くのではなく、登場するバイキンのキャラクターを委員一人一人に書いてもらうというアイデアを出したことです。完成したカードを見て「委員会のメンバー全員が作ったってことになるよね。」と彼女は言いました。自分だけでなく、仲間の存在も認め、副委員長としての自覚が彼女の中で生まれた嬉しい瞬間でした。全員が手がけた活動には、先生方も参加してくださったり、スタンプカードに色を塗ってオリジナルのものにする児童がいたりと、学校全体を巻き込むことが出来ました。保健給食委員の児童にとっても、新しい活動にチャレンジし、仲間の存在の大きさや、潜在的に持っている自分の力に気付くきっかけとなったのではないかと思います。

初任校での日々も、あっという間に3年目となりました。養護教諭になってからは、児童のためになる答えを探し続ける毎日を送っています。その過程には、楽しいことばかりでなく、失敗もたくさんありますが、児童をはじめ、たくさんの先生や保護者に支えられて成長させてもらっています。いつか東小の児童が父親、母親になる頃に、もう一度東小で働くことを夢見て、今日も一日元気に過ごしていきたいと思います。

伊東市立宇佐美中学校

養護教諭　西原　祐未

本校は、生徒数180名、学級数7の小規模中学校です。学校教育目標である「学びを喜ぶ生徒」の実現に向け、学力の確かな定着や豊かな心の育成に全職員で取り組んでいます。

ほとんどの生徒は、校区にある一つの小学校の卒業生で、生徒は小学校から中学校までの9年間を同じ仲間で過ごします。私は、本校に今年度赴任しました。昨年度までは同じ校区にある小学校で勤務していたため、小学校から中学校へ進学し、成長していく生徒の姿を見てきました。その中で課題であると感じたことは、自分で自分の心や体をコントロールする「自己健康管理能力」です。変わらない人間関係の中で、自分から言わなくても気づいてもらえる関係に慣れてしまっているため、中学生であっても自分の体調を上手に伝えられなかったり、改善する方法を自分で考えることができなかったりします。

このような実態から、学校保健目標である「自分の心と体をコントロールできる生徒の育成」を目指し、生徒が主体となって自分の健康について考えたり、見直したりする機会を大切にしたいと考えました。

本校は3学期制ですが、1年を5つのステージに分けて教育活動を進めています。各ステージに1回朝の15分間を利用してF・A・T（Fast・Aid・Time）という小グループの保健活動を長年行っています。F・A・Tは保健委員を中心に生徒同士が関わり合うことで、健康に関する知識を深めたり、心を育んだりすることをねらいとした活動です。第1ステージは「自己紹介すごろく」を行い、すごろくをしながら好きな物や得意なことなどの自己紹介をしました。保健委員が進行役を務めたことで、和やかな雰囲気の中で活動でき「友達の今まで知らなかったことを知ることができて良かったです。」「みんなで楽しく関わり合うことができました。」などの感想がありました。第2ステージは「熱中症の予防」について考えました。熱中症に関するDVDを見た後、グループで協力して熱中症に関するクイズを解きました。グループで話し合いながらクイズを解いたり、保健委員から解説を聞いたりしたことで、生徒たちは熱中症をより身近な問題として捉え、予防に対する意識が高まったように感じます。今後は本校の健康課題である「う歯」や「視力」についても取り上げていきたいと思います。

健康であることや、それを保持増進していく力は、より豊かな人生を歩むために大切なことです。そのために、生徒の主体性を大切にしながら今後も養護教諭として支援していきたいと思います。

げんきな事業所

住友ベークライト株式会社静岡工場

藤枝市高柳二一〇〇番地

住友ベークライト株式会社は、高機能プラスチックや、医療機器製品、半導体関連材料などを研究開発、製造している化学品メーカーです。本社は東京にあり、静岡、尼崎、鹿沼、宇都宮などに工場を配置しています。静岡工場は藤枝市にあり、1962年（昭和37年）に竣工し、今年で55年を迎えます。静岡工場は、敷地面積約84千坪（276千㎡）、主に自動車部品に用いられるフェノール樹脂や電子部品に用いられる回路基板材料、建材、鉄道車両の内装に用いられるメラミン樹脂化粧板などの製造・研究を行っています。従業員数は1,971名、住友ベークライトグループ企業全体で6,358名（2016年3月末現在）。その内、静岡工場は最も従業員数が多く、製造職、研究職、技能職など約700名が勤務しています。社名の「ベークライト」とは、最も歴史の古いプラスチックで、1907年（明治40年）、ベルギー系アメリカ人のベークランド博士が開発したフェノール樹脂の名称です。このプラスチックを1911年（明治44年）、ベークランド博士の親友であった高峰譲吉博士の斡旋で、三共合資会社（現 第一三共株式会社）が、品川工場で試作を開始したのが日本のプラスチック工業の草分けです。

その後、1932年（昭和7年）にベークライト部門が三共株式会社から独立し、日本ベークライト株式会社に、さらに1955年（昭和30年）には、住友化工材工業株式会社と合併、住友ベークライト株式会社となって、今日に至っています。当社の社名の由来もそこにあります。この間、常にプラスチックのパイオニアとして、高度な専門技術と最新の設備とにより、次々に新しい技術開発を行い、あらゆる分野で、安全で快適な生活環境づくりに貢献しています。

静岡工場

メンタルヘルス教育の風景

【健康管理】

静岡工場では、産業医（嘱託）、保健師、看護師が中心となり、日々の相談や健康診断、健診事後指導や特定保健指導、メンタルヘルス研修など健康管理に関しての活動を行っています。製造現場では交替勤務により、変則的な生活パターンになる従業員が多く、保健指導はその方個々の状況に合わせて、出来ることを考えていくよう心掛けています。また化学物質を使用するため健診結果と作業環境を確認し、作業環境改善に向けて取り組んでいます。

【安全第一】

「安全第一」を事業所経営の基本としています。労働災害リスクを低減させるためにリスクアセスメントの推進、危険を知る「体感教育」、過去の災害事例の活用など様々な取り組みを行い、無災害事業所を目指しています。

【製品紹介】

メラミン樹脂化粧シート「デコラ・イノベア（decola innovair）」

鉄道車輌の内装材として、10年・20年単位での使用実績をもつメラミン樹脂化粧材を更に薄くシート化した 「デコラ・イノベア」は、単体で不燃認定（国土交通大臣認定：NM-3163）を取得しており、高いメラミン樹脂の表面機能はそのままに、傷に強く、曲がるメラミン樹脂化粧シートとして、エレベーター内装、パーテーション、ドアなどの平面施工のみでなく、駅やビルの丸柱などの曲面施工にも適用が可能です。マグネットと組み合わせることにより、施工工数を大幅に削減し、一晩で模様替えも可能としたアイテムも取り揃えております。新築、改修共に皆様のお役に立てるように進化を続けてまいります。